

美術の窓

4

April
2019
No.427

THE WINDOW OF ARTS

魅せる力を磨く 装飾テクニック

クリムト、ミュシャ、琳派
展覧会で堪能する装飾美



新連載 鹿島 茂 知られざる傑作

技法講座 蜜蝋の浸透で陰影を作るエンカウステイク技法(中編) 赤木範陸

公募展便り 日仏現代国際美術展・東方展・新槐樹社展・等迎展

秘
技法
講座
VOL.54

独自の技法でつくりあげた
濃密な装飾世界



智内兄助

「Utopia 花非花 花香具野」

178×232cm

ちない・きょうすけ 1948年愛媛県生まれ。東京藝術大学大学院修了。和紙にアクリル絵具という日本画/洋画の境界を越えた革新的な表現で、日本の伝統美に基づく独自の幻想世界を展開。ロスチャイルド家をはじめ、世界中のコレクターを魅了している。

装飾経

「装飾」は官能と死を纏っている。官能の極点である死が装飾を必要としている、といえばよいのだろうか。装飾された金箔は死の匂いがする。西方極楽浄土、ユートピア、拡散する光の粒子界のイメージがある。それは多分、7歳の明るい日、父を野辺に送る時その葬列を飾った金銀の紙細工の強い違和感から来ているのかもしれない。それが長じて装飾経、平家納経に繋がっていく。 (智内兄助)